

## 学校経営推進費 評価報告書(最終)

### 1. 事業計画の概要

<b>学校名</b>	大阪府立すながわ高等支援学校
<b>取り組む課題</b>	生徒の自立支援
<b>評価指標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業アンケートにおける授業参加と授業理解の肯定的割合向上</li> <li>・ ICT 機器を活用した授業を実践する教員の割合向上</li> <li>・ 教員を対象に ICT 機器の稼働率向上</li> <li>・ 関係機関を招聘しての研究授業および実践報告会への参加団体数向上</li> <li>・ 公開授業週間の参加教員数向上</li> </ul>
<b>計画名</b>	すながわ『ルック LOOK』プロジェクト ～ICT を活用した基礎的環境整備～

### 2. 事業目標及び本年度の取り組み

<b>学校経営計画の 中期的目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 高等支援学校教員としての専門性の確立             <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)短焦点プロジェクターや ICT 機器の積極的な活用による授業力の向上</li> </ul> </li> <li>2 安心安全な学校づくりと地域に貢献できる社会人、職業人を育てる校内組織の充実             <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)安心・安全に過ごせる、学校・学習環境づくりの推進</li> </ul> </li> <li>3 地域との連携・協同による、知的障がいのある生徒の就労支援の拠点校としての力の発揮             <ul style="list-style-type: none"> <li>(4)学校、福祉、企業等とのさらなるつながりの連携強化</li> </ul> </li> </ol>
<b>事業目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 視覚・聴覚優位の生徒が多い中で、生徒が主体的に授業へ参加できるよう支援するために、ICT 機器を導入し基礎的環境整備により、個々の特性に応じた自立活動の一斉指導（ビジョントレーニング）をする。</li> <li>・ 日々の自立活動によって、集中力やコミュニケーション力、プレゼンテーション力の向上をはかる。</li> <li>・ 視覚・聴覚支援によって全授業で「わかる」授業を行い、主体的でより深い学びを実践し、生徒・保護者の学校満足度を向上する。</li> <li>・ ICT 機器を活用した授業の実践例を積み重ね、授業力向上をめざす。</li> <li>・ 積み重ねられた実践例を関係各機関と共有することにより、支援教育のセンター的機能を発揮する。</li> </ul>
<b>整備した 設備・物品</b>	インタラクティブ短焦点プロジェクター、Wi-Fi アクセスポイント、タブレット端末
<b>取り組みの 主担・実施者</b>	<p>取り組みの主担者：将来構想会議（首席…プロジェクト取りまとめ） ICT 委員会…サポートチーム</p> <p>取り組みの実施者：全教員</p>
<b>本年度の 取組内容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICT 機器を活用した教員研修をサポートチームにより随時実施</li> <li>・ サポートチームによる機器活用の促進とオンライン授業を促進する研修を実施</li> <li>・ G suite を活用したオンライン授業の試行実施</li> <li>・ 『関西教育 ICT 展』における実践報告と『一般社団法人日本教育情報化振興会 ICT 夢コンテスト』への応募</li> <li>・ 各授業での生徒理解度・学習参加度を含めた授業アンケートの実施</li> <li>・ 公開授業週間での研究授業の実施</li> <li>・ Google Meet を用いた高大連携の実施（2回）</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 初任者およびインターメディアイト対象教員による ICT 機器を活用した研究授業の実施（4回）</li> </ul>
<b>成果の検証方法 と評価指標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 授業アンケートに授業参加の項目と授業理解の項目を設定し、肯定的割合を 80%以上にする。</li> <li>② ICT 機器を活用した授業を実践する教員の割合を 90%以上にする。</li> <li>③ 教員を対象に行う ICT 機器の利用率に対するアンケートにおいて稼働率を 80%以上にする。</li> <li>④ 関係機関を招聘して実施する研究授業および実践報告会への参加団体数を 30 団体以上にする。</li> <li>⑤ 公開授業週間の参加者数を 50 名以上にする。</li> </ol>
<b>自己評価</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 生徒対象の授業アンケートでは、授業参加の項目では 90%以上、授業理解の項目で 85%以上の肯定的回答を得ることができた。…………… (◎)</li> <li>② 各教科での ICT 機器を活用した授業を実践した教員は 100%であった。…………… (◎)</li> <li>③ 教員対象の ICT 機器の利用率に対するアンケートでは、各授業での稼働率は 95%以上の回答を得ることができた。…………… (◎)</li> <li>④ 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、関係機関を招聘しての研究授業および実践報告は実施できなかったが、『関西教育 ICT 展』と『一般社団法人日本教育情報化振興会 ICT 夢コンテスト』にて実践報告を行った。…………… (○)</li> <li>⑤ 公開授業週間中に大阪府において新型コロナウイルス感染症によるレッドステージが発令されたため途中で中止となったが、総計 25 名が参加できた…………… (△)</li> </ol>
<b>事業のまとめ</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒対象の授業アンケート結果から、授業参加と授業理解の項目で肯定的回答数が向上した。</li> <li>・ 教員対象の ICT 機器を活用した授業を実践した教員数は、大幅に向上した。</li> <li>・ 各授業での ICT 機器の稼働率は毎年向上した。</li> <li>・ 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、関係機関を招聘しての研究授業や実践報告は実施できなかったが、『関西教育 ICT 展』と『一般社団法人日本教育情報化振興会 ICT 夢コンテスト』にて実践報告を行ったことで、本校の取組みを伝えることができた。</li> <li>・ 来年度以降も引き続き ICT 機器を活用した授業実践を行うとともに、地域の小中学校等へ周知し、公開授業週間の参加者を増やしていくことが課題である。</li> </ul>